

研修報告書 No. 14

所 属：県外大学病院研修医

研修先：本山町立国保嶺北中央病院

大川村国保小松診療所

高知市土佐山へき地診療所

私は平成 29 年 2 月の 1 ヶ月間、本山町立国保嶺北中央病院、高知市土佐山へき地診療所で研修させて頂きました。また、研修期間中には大川村診療所、黒丸診療所などでの診療も経験させて頂きました。

本山町立国保嶺北中央病院は総病床が 100 床の嶺北地区の基幹病院であり、私は入院患者の管理や救急外来患者のファーストタッチ、局所麻酔の手術、各種外来見学を研修させて頂きました。入院患者は 85 歳以上の超高齢者が多く、多くの方が認知症や誤嚥性肺炎、高血圧や糖尿病を合併しており、単純に入院の契機となった疾患だけでなく、その後の日常生活の復帰までの道のりを考慮に入れなければならない点が大学病院では学ぶことが少なく、大いに勉強になりました。また、老衰で入院される患者さんもおり、どこまで治療を行い、家族との最後の時間をどう過ごしていただくかを考えさせて頂いたことは貴重な経験となりました。

嶺北中央病院は救急外来においても重要な役割を果たしており、多くの患者さんの診療を経験させて頂きました。少ないスタッフで救急外来を回すためにはお互いの役割を超えた助け合いが必要であり、協力して診療を行う姿に感銘を受けました。

また、整形外科での手術に数多く参加させて頂きました。麻酔科医はおらず、局所麻酔の手術が中心でした。術者として任される事が多く、器具を握る手に自然と力が入りました。

各種外来見学は泌尿器科、脳神経外科、皮膚科、整形外科を見学いたしました。地域に根ざした病院であり、大学病院ではなかなか診ることのない common な疾患が多く、大変勉強になりました。

土佐山へき地診療所では、周囲に医療機関がほとんど無く、公共交通機関もない状況での医療をどのように行っていくかについて研修しました。車などの移動手段の無い患者さんのために送迎バスを運用するなど、医療からの孤立を防ぐ試みがなされていました。そういった方々は医療機関に受診する機会が限られており、小さな変化も見逃すことの無いように注意を払うことを教えて頂きました。血液検査の結果がすぐに出ない状況の中でそういった変化を見逃さないための取り組みの一つに、外来診察の前にはかならず体重を測ることがありました。高齢者は体重変動が少なく、体重減少には多くの疾患が隠れており、外来の前に体重測定を行うことで、変化を事前に察知することができると教えて頂きました。

今回、高知県で地域研修をさせて頂き、高知県の医療の現状を肌で感じる事ができました。超高齢化社会、人材不足は東京の 20 年先を行っているとも言われており、将来の医療に対する心構えが必要であると思われ知らされました。超高齢化による問題は患者さ

んが増えることだけではなく、外来にくることのできない患者さんが増えることだと学びました。訪問診療で訪れたお宅では、車がないと行けないような山の奥地に足の悪い高齢の女性が一人で暮らしており、医療資源からの孤立を痛切に感じました。高知県ではそういった方が孤立しないように訪問診療を積極的に行っており、医療・介護・福祉の充実を実感しました。

今後、形は違えど、東京都でも同じように医療資源へのアクセスが困難な高齢者が増えていくと考えられます。さらに東京都は高齢者の数も多く、高知県と同じような対策だけでは追いつかない可能性が考えられます。そのためにも、モニター越しでもできる診察や、血糖値や血圧などがリアルタイムで医師のもとに届くなどの医療技術の進歩が必要であると実感しました。

地域研修を通して、現在の医療が抱えている多くの問題に気づくことができました。それは終末期の医療や、増え続ける高齢者とそれを取り巻く医療環境といった、避けては通れないものです。今回の研修での経験を活かし、それらの問題解決に取り組んでいきたいと思っております。